施設名	大西清右衛門美術館
分類	茶の湯釜を主とした茶道具類を公開
住所	京都市中京区三条通新町西入ル釜座町１８－１
連絡先	・代表TEL：075-221-2881 ・営業時間： 10:00～16:30　（休館日　月曜（祝日の場合その翌日）、展示替え期間） ・Website： http://www.seiwemon-museum.com/new/japanese/index.html
施設概要	・建物： 2F 受付・呈茶席・休憩室、3F 展示室 6F 研修室（49㎡、椅子置き可） 7F 茶室(123㎡)・庭
現在の客層	・国内：個人・団体観光客（茶の湯・芸術関係者が比較的多い） ・海外：個人・団体観光客（芸術関係者が比較的多い）
大西様の美術館、釜解説	・約400年続く大西家の「茶の湯釜」の技術を継承され、美術館には歴代を主とした茶の湯釜の作品が企画展のテーマに沿って展示されている。 ・茶の湯釜は通常直接手にふれることのない道具であるが、身近に親しんで理解・関心を深めていただくために、茶会や鑑賞会、親子で参加できる体験イベントを開催し、手にふれて鑑賞していただく機会を積極的に設けている。 ・茶の湯釜の紹介と制作工程の紹介を兼ねた（ドキュメンタリーピクチャー）企画、常設展示、現在調査・研究中の文書史料については今後順次公開予定。 ・年２回開催の茶会では収蔵品の茶道具を使い、展示作品を鑑賞するだけでは味わうことのできない、湯の沸いた釜から湯気の立ちのぼる風景や鳴り音を楽しんでもらえる。 ・海外観光客誘致については団体を受け入れる場合、なるべく芸術性に理解を示していただける方を対象にアピールしていきたいと思っている。 ・茶の湯釜の本来の楽しみ方、鉄の鋳物としての芸術性の両面を理解いただけるように、また釜をご存知ない方の意見も参考に、展示方法や方向性を見出していきたい。

参加者からの質問や感想など	参加人数：14名 （ホテル接客・営業担当、観光ガイド、茶道関係、販売業（営業） 他） 意見交換会： ＜現在の釜の制作について＞ ・受注はどのようになっているのか？ 大西様：(美術館での受注ではなく)大西清右衛門個人で承っている。通常は美術商・百貨店等を通じて注文依頼を受けて制作している。 ・必要とされていることは？ 大西様：釜の造形美の認知 ＜美術館について＞ ・訪問者が一番興味を示されるところは何か？ 大西様：茶の湯釜のデザインの比較(茶室に釜は１つしかなく、展示室では多数の釜を比較して鑑賞することが可能なため）、使用場面(趣向・季節など)手入れや保存方法。釜座および大西家の歴史。工房での制作工程など。 ・海外に対しては、国・エリアを限定して広報・宣伝されているのか？ 大西様：特に国やエリアを限定していないが、茶の湯を芸術的な視点からご理解いただけるかで判断している。 ・マーケットの対象になる顧客層は？ 大西様：芸術・日本文化の理解者・美術館・美術収集家・富裕層 ・工房見学は可能か？ 大西様：現在は公開していない。
研究会様子	 さまざまな釜のデザインを拝見した 美術館内の展示視察 工房にて職人さんより解説頂く 釜の部品制作も視察させて頂いた